

7 授業の実際と考察

(1) 言葉による見方・考え方について ～論の進め方の工夫「事例の順番」～

筆者がどんな思いでこの順番に4つの事例を並べたのか、分かりやすい順番とはどういうことなのか、班で話し合い、それぞれの考えを確認できるよう、共有した。

T15: 他の班の意見を聞きます。

下 線: 見方・考え方

C9: 分かりやすいことから説明している。

理由は、P49L10に「分かりやすい例が」と書いてあるから。

T16: つまり、最後の例は少し分かりにくいつてこと?

C10: うなずく。

T17: 6班は?

C11: 教科書に、「みなさんも～経験があるでしょう」と書いてあり、みんなが共感できて、その通りだと思う順番になっている。それが、分かりやすいにつながる。

T18: 1班は?

C12: 共感しやすい順番に並んでいると思う。ゲームは実感がわくし、それから朝・昼・晩の体の状態も分かる。最後に人によって感じ方がちがうことにつながっている。

T19: なぜ最後の事例が「人によって感覚が異なる事例」だったのか説明してください。

C13: 最後の6段落は、3, 4, 5段落をまとめてさらに強調して述べている。



筆者がこの事例の順番に並べた理由を発表する子



本文の叙述を基に理由を発表する子

子どもたちは、筆者が分かりやすい順番に事例を並べている根拠を、本文の叙述を基に述べる姿が見られた (C9・C11)。このことから、筆者の論の進め方の工夫である「事例の順番」という見方からこの説明文を捉えさせることで、本文の「分かりやすい例が」や「みなさんも～経験があるでしょう」といった言葉に着目して根拠を述べている姿、つまり言葉による見方・考え方を働かせた姿が表出したと考える。「事例の順番」に着目するという「見方」によって、文章の内容や表現を問い直し、その「見方」を生かして、文章の内容や表現を捉え直し、様々に思考を巡らせたり、意味付けをしたりすることが「考え方」を働かせる姿であることが見えてきた。しかし、子どもたちは本文に着目せず理由を述べる姿もあった (C12・C13)。本文のどこを根拠として着目するかまで想定し、教師がそこで「どこにそう書いてあるの?」などの問い返しを意図的に行うことで、言葉による見方・考え方を働かせている姿の表出につながるということが分かった。

(2) 問い返しと話し合い活動の工夫について ～分かりやすさを具体にする問い返しとペアやグループでの話し合い活動の場の設定～



分かりやすい順番とはどういうことか
ペアで話し合う子

子どもたちに、筆者がどうしてこの「事例の順番」で提示したのかを考えさせた際、分かる子と分からない子、それぞれに挙手する子どもたち。そこで、追求問題「◎筆者はどんな思いでこの順番に4つの事例を並べたのかはつきりさせよう」と設定した。その後、一人で考えることが難しい子もいたため、ペアで話し合ってみることとした。話し合い後、「分かりやすいことから言っている。」という発言があった。この発言から、分かりやすいをもっと具体で捉えてほしいと思い、「分かり

やすいつてどういうこと？」と問い返し、児童全員が考えることができるよう、班で話し合いをしてもよいこととした。話している言葉は曖昧で大まかな表現が多いが、問い返しによって、筆者の意図について明らかにするために、事例の内容や事例と事例の関係を考えながら、話し合う姿があった(B3・D1・B4・A3・B5)。このことから、ねらいにせまる具体を明らかにする問い返しやその後のペアやグループでの話し合い活動の場を設定することで、言葉による見方・考え方を働かせた姿の表出につながる事が分かった。

しかし、4つの事例の順番の筆者の意図について、児童全員が追求意欲を高めるには、問い返しの前に全員が自分の考えをもっていることが必要条件である。そこが今回不十分であったため、思考が停滞する班も見られた。「分かりやすいことから言っている。」という子どもの発言を全体に広げたり、個人やペアで十分に考える時間を確保したりすることが必要であった。

(3) 言葉による見方・考え方の価値付けについて ～論の進め方について自分の考えを書く場の設定～

単元の終末に、筆者の論の進め方の工夫について、自分の考えを書く場を設定した。筆者が読み手を納得させるために、事例を挙げるだけでなく、「共感しやすい順番」ということまで意図して文章を書いていることに気付いた子どもたち。次の提案文を書く単元の時には、この論の進め方の工夫を参考にして書きたいと意欲を高めた記述が多く見られた。また、「学校での事例を挙げる」「家族の事例を最後に出してより共感できるようにする」などと自分なりに筆者の事例の内容や順番の意図に対して補足する考えを述べる子もいた。このことから、論の進め方について自分の考えを書く場を設定することで、筆者の意図を捉えた姿を的確にみとることができた。この姿が全体に派生するように、価値付けを丁寧に行うとともに、次の書く単元でもこの学びを生かして取り組む姿を見逃さず価値付けていくことで、言葉による見方・考え方を働かせて問題解決をする子の姿のさらなる表出につながると考える。



筆者の論の進め方について
自分の考えを書く子

(4) 成果と課題

- 筆者の論の進め方の工夫である「事例の順番」という「見方」からこの説明文を捉えさせることで、本文の言葉に着目して根拠を述べようと「考え方」を働かせる姿があった。
- ねらいにせまる具体を明らかにする問い返しとペアやグループでの話し合い活動の場の設定を行うことで、筆者の意図を明らかにするために、事例の内容や事例と事例の関係を考える姿につながった。
- 言葉による見方・考え方を働かせた姿の価値付けには、学びを振り返る場や学んだことを生かす場の設定が必要である。的確に見取り、価値付けをすることに有効である。

- 言葉による見方・考え方を働かせた姿の表出には、2つの条件が必要である。一つ目は、教師が文章を捉える視点である「見方」を設定し、本文のどの言葉を根拠として着目するかまで想定し、目指す姿を明確にしておくことと見取ることができること。二つ目は、子どもの考えに対し本文の根拠を問う問い返しを行うことである。

下 線：見方・考え方

～班での話し合いの様子～

A1：心の時間が最初にあつて。

B1：まず心でしょう、体でしょう、身の回りの環境
でしょう。何でこの順番にしているのか…。

B2：最初に、分かりやすい例がゲーム。

C1：最後に、人によって全部違うだよ。

A2：ああ、人によって全部違う？

B3：最後まとめて、人によって違う。

D1：(最後の事例だけでなく、他の事例も) 人によっ
て違う。最後にまとめてバーンだ。

B4：確かにそうだ。

A3：最後に強調してるんじゃない？

B5：細かく説明して最後にバーンだ。